

UDC 389.17

Z 8601

# JIS

標 準 数

JIS Z 8601-1954

(1978 確認)

昭和 29 年 10 月 30 日 制定

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

## ま え が き

標準数は工業標準化、設計などにおいて数値を定める場合に選定の基準として用いるものであり、JESにも寸法標準数（日本標準規格 JES 第3号 類別 Z1）と等比標準数（日本標準規格 JES 第4号 類別 Z2）の2規格があったが、これらの廃止にともない“標準数”を再検討し、国際性も考慮してこの規格が制定されたのである。

この規格の原案は ISO Recommendation R3 (Preferred Numbers-Series of Preferred Numbers) および上記の JES などを参考として工業技術院標準部で作成したものである。この原案は日本工業標準調査会基本部会（部会長 朝倉希一）に付託され、標準数専門委員会の審議にかかり、つぎのような審議を経て議決された。

- |                       |  |
|-----------------------|--|
| 昭和 28. 8. 12 (専門委員会)  | 委員長長の互選を行ない、鬼頭史城氏（日本機械学会）に決定。つづいて基本的方針などを討議。                                     |
| 昭和 28. 9. 11 (専門委員会)  | 原案を逐条的に審議。   |
| 昭和 28. 10. 23 (専門委員会) | 同 上  |
| 昭和 28. 11. 20 (専門委員会) | 同 上  |
| 昭和 28. 12. 15 (専門委員会) | 前回までの審議結果に基く修正原案を書面で審議し、これを議決。   |
| 昭和 29. 4. 27 (部会)     | 専門委員会から回付された原案を審議し、これを議了したが、この規格は鋳工業全般にわたる基本的な性格のものであるから、他部会の意見を求めた上で議決することになった。 |
| 昭和 29. 5~29. 8 (意見聴取) | この規格について他部会の意見を求めた。  |
| 昭和 29. 9. 27 (部会)     | 他部会の意見聴取結果を検討したが、さきに議了した原案をとくに改正する必要も認められないのでこれを議決。                              |

## 基本部会 標準数専門委員会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	鬼頭史城	日本機械学会
	今井信男	日本船舶工業標準協会
	内田章五	東京工業試験所
	江守忠哉	日立製作所亀有工場
	奥野久輝	日本化学会
	川本勇	日本国有鉄道
	小山正徳	工業技術院標準部
	神保泰雄	精機学会
	鈴木光	日本鋁業会
	清宮博	電気通信学会
	多田和夫	防衛庁技術研究所
	立川玄一郎	日本電信電話公社
	田原保二	土木学会
	鶴見勇馬	日本規格協会
	鳥羽安行	日本金属学会
	平井啓輔	富士精密工業株式会社
	前田幸夫	三菱電機株式会社
	三浦光男	いすゞ自動車株式会社
	三宅修三	電気試験所
	森沢正人	古河電気工業株式会社
山本勝郎	機械試験所	
山本広三郎	電気学会	
山口重長	住友金属株式会社	
横山均次	日本鉄鋼協会	
(事務局)	山本俣	工業技術院標準部運輸航空規格課
	宇田川鉦作	工業技術院標準部運輸航空規格課
	加島良一	工業技術院標準部運輸航空規格課

主務大臣：通商産業大臣 制定：昭和 29.10.30 確認：昭和 53.12.1

官報公示：昭和 54.1.13

審議部会：日本工業標準調査会 基本部会（部会長 朝倉 希一）

審議専門委員会：標準数専門委員会（委員長 鬼頭 史城）

この規格についての意見又は質問は、工業技術院標準部材料規格課（〒100 東京都千代田区霞が関1丁目3-1）へ連絡してください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第15条の規定によって、少なくとも5年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。